

—市民とともに「守り・育む宝塚の農」—
宝塚市農業振興計画
＜概 要 版＞

平成24年(2012年)3月

宝 塚 市

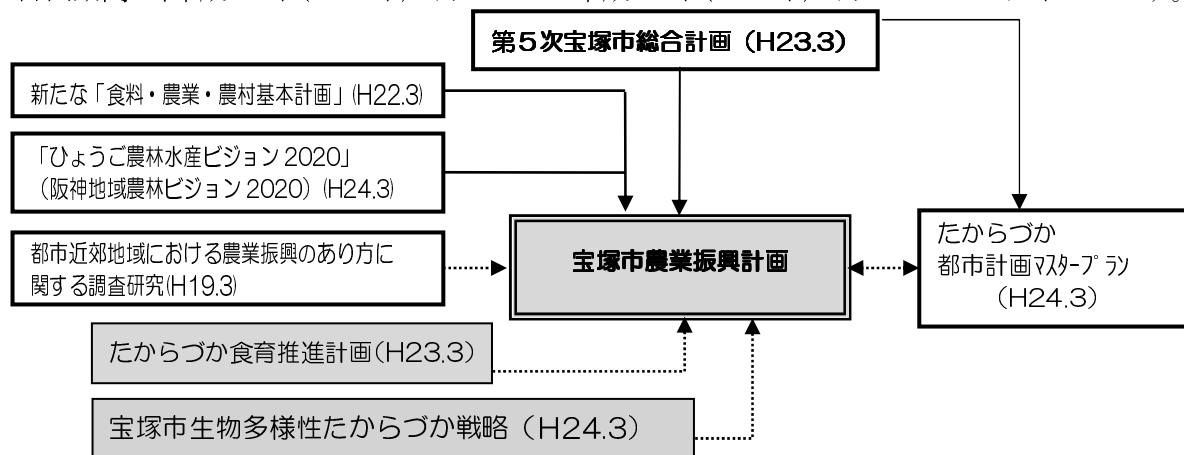
目 次

1. 本計画の位置づけ	1
2. 農業を取り巻く状況	1
3. 農業の現状と課題	1
4. 農業の将来像	5
5. 地域別農業振興の方針	6
6. 農業振興策の展開	7
7. 計画推進にあたって	9

1. 本計画の位置づけ

本計画は、国の新たな「食料・農業・農村基本計画」や兵庫県の「ひょうご農林水産ビジョン2020」を受け、平成22年度に策定された「第5次宝塚市総合計画」を上位計画とし、また今後の本市の農業のあり方や取り組むべき具体方策を示すもので、第5次宝塚市総合計画のほか関連計画との整合を図りながら進めるものです。

計画期間は、平成24年(2012年)4月1日から平成34年(2022年)3月31日の10ヵ年とします。



2. 農業を取り巻く状況

宝塚市の農業を取り巻く環境において、以下の点が主な課題となっています。

- ①少子高齢化・人口減少社会の到来
- ②環境・食料・エネルギー問題のグローバル化
- ③多様なライフスタイル
- ④安全・安心に対する意識の高まり

3. 農業の現状と課題

宝塚市の農業の現状は、以下のとおりです。

【農地】

農地（経営耕地）は平成22年時点で344.9haで、昭和60年の589.3haから、25年間で6割以下に減少しています。

生産緑地は81.49ha、350地区（H22.12現在）で、近年は減少が続いています。

【農家】

農家戸数は、昭和60年度には1,160戸であったが、平成22年では677戸と、年々減少しています。

比較的販売生産額の少ない小規模農家が多くみられます。

【農産物の流通】

兵庫六甲農業協同組合が運営する直売所（西谷夢市場など）、宝塚朝市、地元の販売所や量販店などで販売され、市民や市外の消費者に購入されています。

【宝塚市の農業の特徴】

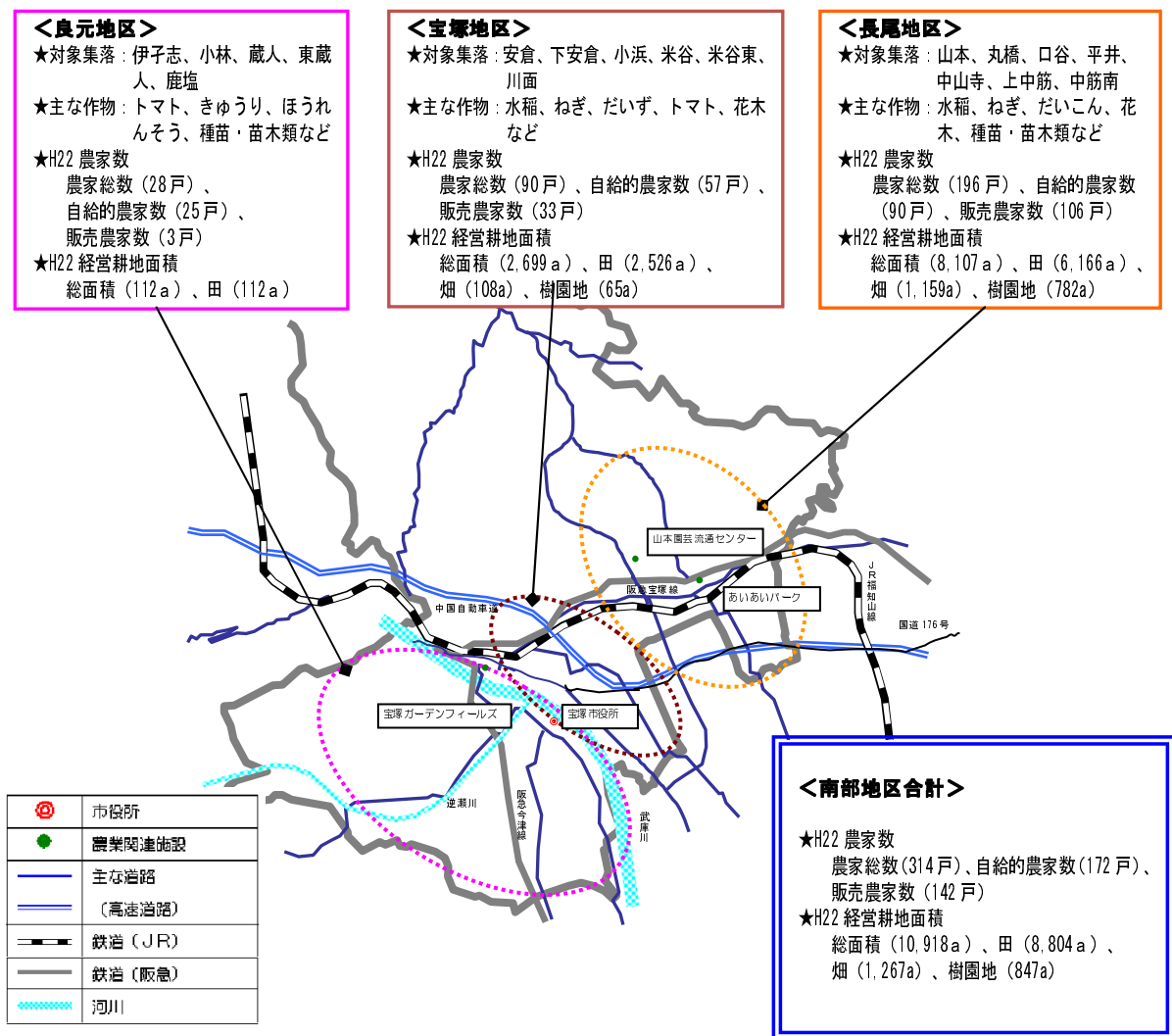
水稻をはじめ豆類やイモ類、軟弱野菜などを栽培する都市近郊農業の特色を示す一方で、花木と種苗・苗木類が多いことが特徴となっています。また、北部地域では畜産業も行われています。

本市の農業は、長尾地区を中心に植木産業が展開する南部地域と、「西谷野菜」で知られる北部地域に大きく2分されます。しかし、いずれも副業的自給農家が大半を占めています。

《南部地域の農業》

南部地域を代表する花き・植木産業は約千年の歴史をもつと言われ、昭和初期には全国有数を誇っていました。近年、花や植木によるガーデニングへの関心が高くなり、宝塚オーブングーデンフェスタなどの花や緑を活かしたイベントに多くの市民が参加しています。

南部地域の農地は、市街化区域内にある市街化農地と生産緑地に分けられます。農家戸数は314戸で、1農家戸数当たりの平均経営耕地面積は約35aと小規模であり、自家消費農家が大半を占めています。



*資料：いずれも 宝塚市統計書
世界農林業センサス

《北部地域の農業》

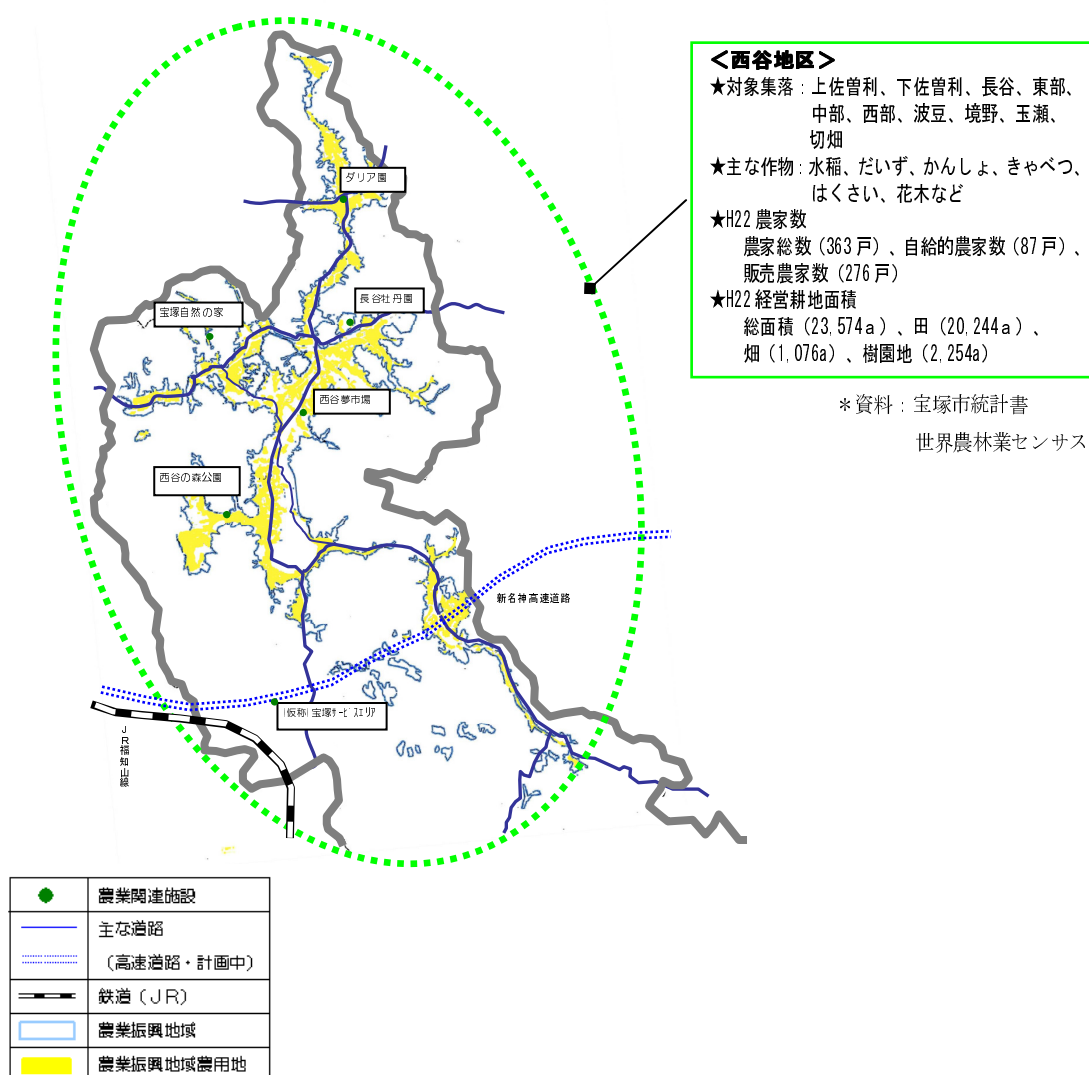
北部地域の農地は農業振興地域とされ、農家戸数は363戸で、1農家戸数当たりの平均経営耕地面積は約65aであり、稲作を中心とした副業的自給農家が大半を占めていますが、都市近郊の農業として季節に合わせた農産物の栽培や、イチゴ狩り、栗拾いなどの観光農業もみられます。

この地で生産される野菜は「西谷野菜」と呼ばれ宝塚ブランドとして人気も高まりつつあり、その普及促進とともに、農業の振興と地域の活性化を図ることを目的に設置された西谷夢市場は、年々売上げを伸ばしています。

また、山里の気候条件や地理的条件を活かした花きの栽培も特徴となっており、上佐曽利地区では、ダリアなどの球根栽培が盛んであり、全国有数の生産地として知られています。

北部地域における酪農や肉用牛生産等は、地場産業として発展し、基幹部門のひとつとなっています。

なお平成28年度末に完成が予定される新名神高速道路にあわせたサービスエリアやスマートインターチェンジの計画があり、開発インパクトとなることが期待されます。



【宝塚市の農業の課題】

＊農地の保全と活用

- ・南部地域を中心に農地の減少が続き、担い手・後継者不足の問題などから、園芸のまちなみ景観維持を困難にしています。
- ・北部地域では、優良農地の保全と未利用農地の有効活用が課題となっています。

＊既存施設の活用

- ・宝塚らしい農業振興のための施設について、宝塚の「農」に対する市民の理解と意識を高める施設となるよう、活用していく必要があります。

＊地産地消の推進

- ・本市では、農産物の供給が不十分な状況にあります。市民が地産地消を実感するため、一定の生産量の確保とそのための労働力の確保が必要です。

＊農業の6次産業化の推進

- ・農業者や新規就農希望者に対する農業の6次産業化に関する情報の提供や関係機関との協力体制づくりを進めるなど、積極的に推進する必要があります。

＊宝塚らしい「農」の展開

- ・「農」を通して市民が交流し楽しめる環境づくりを進め、持続的に宝塚らしい農業、「農」の文化を定着していくことが望まれます。

＊農業環境の改善

- ・宅地化により農地の減少と小規模分散化に伴い、農業用排水路の確保や農薬散布などの問題が生じ、農地そのものの存続が危うい状況にあります。
- ・有害鳥獣による農産物被害等の拡大や、有害昆虫の問題も顕在化しつつあります。

＊本市の農業の市民への周知

- ・本市の農業については、その存在すらも知らない市民も多いといわれています。
- ・本市における農業の実態について、情報発信し、市民とともに農業を考えていく素地づくりを行う必要があります。

4. 農業の将来像

本市の農業を取り巻く厳しい現状を踏まえつつ、農業そのものの魅力（収益性の向上とともに、やりがいや楽しさなどを実感）を高め、消費者としての市民にとどまらず、農業への参画も含めた市民参加型の振興策を進めることを基本とします。農業を単に「生産」という視点だけで捉えるのではなく、加工・流通・消費という一連の産業活動としてとらえ、さらに本来のアグリカルチャー「農文化」という視点を重視し、景観や環境づくり、まちづくり、文化性・芸術性も加味した、宝塚らしい魅力ある宝塚農業の展開を推進することとし、キャッチフレーズを以下のように掲げます。

～市民とともに「守り・育む宝塚の農」～

本市には、自然環境に恵まれた田園風景が広がる北部地域と、伝統と技術を継承する花き・植木に代表される南部地域があり、豊かな環境と美しい景観を生み出し「くらし」を支えてきた「農」があります。

一方、私たちの「生命」を支えるのは「食」です。その「生命」の糧を作り出し、供給してくれるのが「農」です。

近年、「食」と「農」に、大きな変化が見られ、私たち一人ひとりの課題として、将来へ安全・安心な食と農、豊かな環境と伝統を引き継ぐことが求められています。

このため、農業の大切さや魅力を広くPRし、地産地消を推進するとともに、農業の担い手の育成を図り、消費者および生産者としての市民参加型の守り・育む農業の振興、「農」への展開を推進します。

農業の将来像『市民とともに「守り・育む宝塚の農」』の実現に向けて、以下に具体的な将来ビジョンを掲げ、そのイメージを共有するものとします。

農業を誇りに思い継続していく農家が増える

新鮮で安心できる地元農産物が供給される

農業が市民の交流を促す

農空間がまちの環境を豊かにする

農業の活性化が宝塚らしさを育む

5. 地域別農業振興の方針

＜宝塚市の農業の将来像＞

市民とともに「守り・育む宝塚の農」

* 南部地域の農業振興施策の方針 *

【課題】

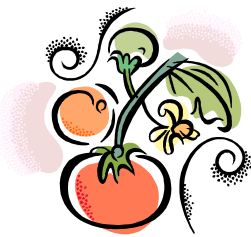
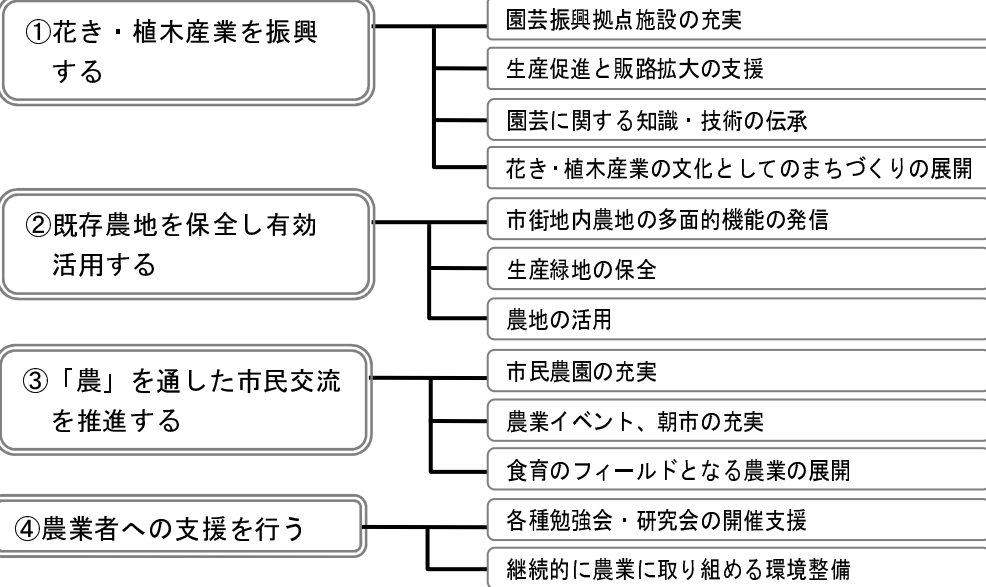
- * 花き・植木産業のストック活用と複合的な展開
- * 市街地農地の役割の見直しと保全・活用
- * 市民とともに市街地農地の活用方策、仕組みの検討

【農業振興の方針】

花き・植木で代表される「農」を、市民とともに守り、まちづくりに活かしていきます。

【施策の体系】

＜南部地域のキャッチフレーズ＞
市民とともに守り育む「農」と園芸



* 北部地域の農業振興施策の方針 *

【課題】

- * 後継者・担い手不足の解消、農業者の営農意欲の向上
- * 耕作放棄地を含めた農地の保全と有効活用
- * 農業振興に向けた農業支援体制づくりの推進
- * 特色ある地域農業の振興
- * 地産地消の推進
- * 新たな開発インパクトへの対応（新名神高速道路の建設）
- * 生物多様性の保全に配慮した農業の推進

【農業振興の方針】

山里的環境を活かし、これまで展開されてきた個性的な地域農業の持続的発展に向けて、地産地消などを基本にした市民との交流や農業者への支援などを重視した農業の活性化を図ります。

【施策の体系】

＜北部地域のキャッチフレーズ＞
市民とともに育むふるさと「農」の交流舞台



【農業振興策の展開】

具体方策

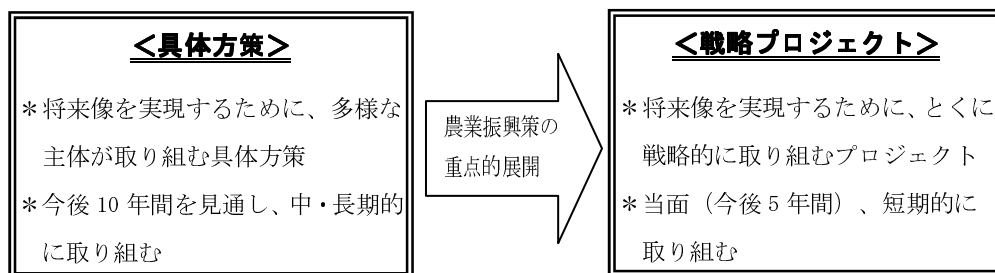
戦略プロジェクト

6. 農業振興策の展開

本市の農業の将来ビジョンおよび地域別の農業振興の方針を達成するため、今後 10 年間を見通し取り組むべきと位置づけられる方策については「多様な主体が取り組む具体方策」として推進します。

さらに、本市の農業を取り巻く将来像を実現するため、重要かつ早急に（今後 5 年の間）に取り組むべきものを「戦略プロジェクト」として位置付け、推進します。

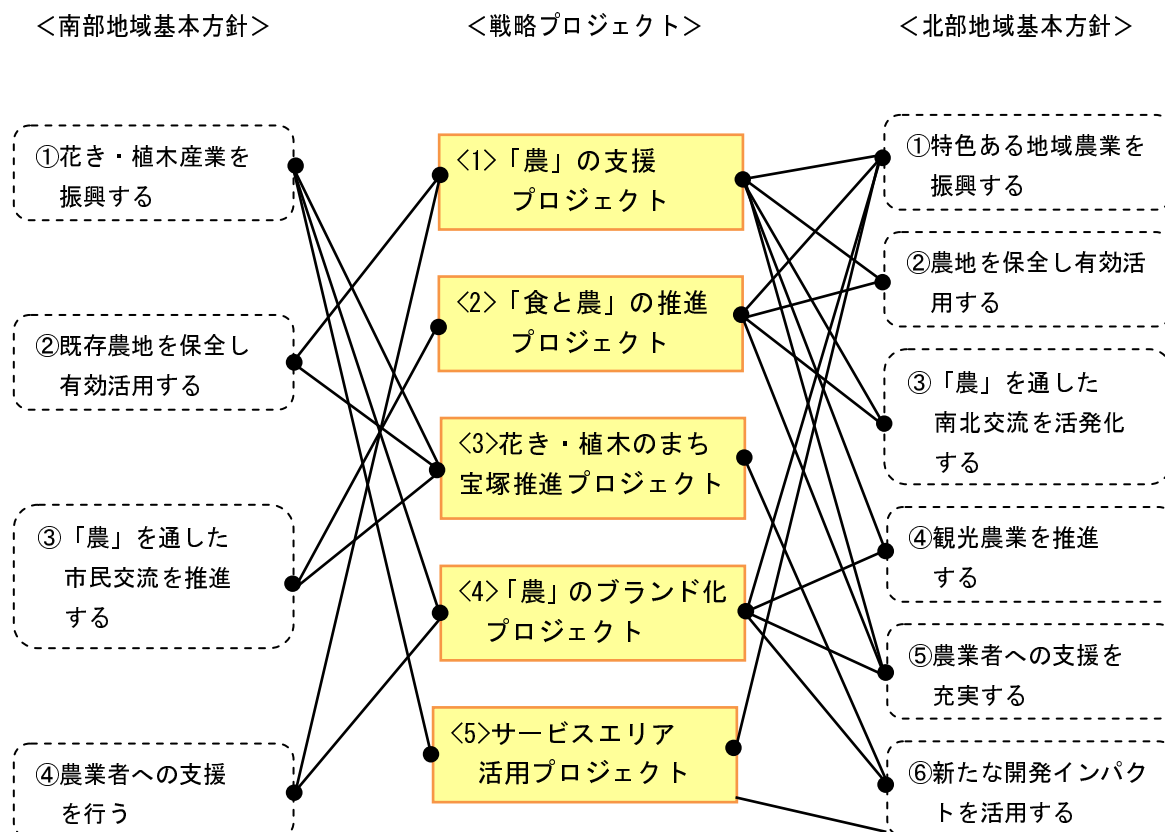
戦略プロジェクトは、随時その継続および新規の立ち上げについて見直します。



戦略プロジェクト

ここに位置づけする農業振興策（＝戦略プロジェクト）は、本市の農業の将来像を実現するため、当面（今後 5 年の間）、戦略的に取り組んでいくものです。

なお、主要施策の実施にあたっては、多様な主体が積極的に取り組むこととします。



＜1＞ 「農」の支援プロジェクト

＜目的＞

消費者である市民が農業への理解を深め、農業を支援する仕組みを構築し、市民が支える農業の創出を目指します。

また、農家の生産力や競争力の向上を図るため、既存の農家や新規就農者などを対象に、農業技術や経営ノウハウの習得、遊休農地を中心とした効率的な農地の活用を支援を行い、農業の活性化を促進します。

＜取り組み内容＞

- ①農業実践講座の開設
- ②農業サポート事業の充実
- ③農業技術・経営ノウハウ習得の支援
- ④女性をはじめとする新たな担い手の参画を創出
- ⑤集落営農や農地の利用集積の促進
- ⑥農地に関するワンストップサービスの構築

＜2＞ 「食と農」の推進プロジェクト

＜目的＞

「食」は人間のいのちを支える最も重要な要素であり、「農」はその「食」を作り供給してくれるものです。食育の重要な位置にある「農」について、地産地消を中心とした市民（消費者）と農業者（生産者）との交流を通して相互理解を深め、地域農業の活性化を目指します。

＜取り組み内容＞

- ①宝塚農業を活かした「食と農」の講座などの開催
- ②宝塚産農産物・加工品を市民が手に入れ、食べやすい環境づくり
- ③学校給食における「地産地消」の推進
- ④宝塚産農産物の自給力の向上

＜3＞ 花き・植木のまち宝塚推進プロジェクト

＜目的＞

花き・植木産業の活性化を促進させるため、「花き・植木のまち宝塚」の情報を広く発信・定着させるとともに、経営競争力を高め、花と緑のまちづくりへの展開を推進します。

＜取り組み内容＞

- ①「花き・植木のまち宝塚」のPR強化
- ②宝塚ガーデンマスター制度による展開
- ③花き・植木産業の活性化支援
- ④新たな花き・植木生産の促進

＜4＞ 「農」のブランド化プロジェクト

＜目的＞

特色ある宝塚の農産物や加工品、農業の魅力などを、「農」のブランドとして位置付け、市内外へ情報発信することで、農業者の意欲と活力の向上を図り、生産性を高めるとともに、販路拡大や売り上げの向上につなげ、宝塚農業の活性化を図ります。

＜取り組み内容＞

- ①宝塚ブランドの選定の推進
- ②新たなブランド商品の研究・開発
- ③多様なツールを用いた宝塚産の魅力情報の発信

＜5＞ サービスエリア活用プロジェクト

＜目的＞

（仮称）宝塚サービスエリアおよびスマートインターチェンジ（要望活動中）の開発インパクトを有効活用することで、地域および農業の活性化につなげ、北部地域にふさわしいまちづくりを進めます。

＜取り組み内容＞

- ①（仮称）宝塚サービスエリアおよびスマートインターチェンジ活用策の推進
- ②情報発信機能の充実
- ③地域活性化イベントの企画・開催

7. 計画推進にあたって

計画推進にあたっての各主体の役割

宝塚市農業振興計画を推進していくため、行政、市民、農業者がそれぞれの役割を果たしながら、場合によっては、それを支援、協働作業としてともに取り組んでいくことが求められます。

このため、農業者同士の連携から、消費者を含めた地域での連携、市全体における連携といった情報共有ができるよう、交流機会の拡充を図るとともに、各関係者が可能な限り情報発信を続けることを目指します。

計画の進行管理

「宝塚市農業振興計画」の推進にあたって、本市を取り巻く社会情勢や財政状況等を勘案しながら、その施策等については5年までの短期的に進めるもの、今後10年を見通し中・長期的に進めるものに区分して取り組みます。

また、毎年度その達成状況や成果を検証して進行管理を行い、本計画に示された施策を着実に推進し、必要に応じて計画や取り組み内容の見直しを行っていきます。